

広島工業大学

同窓会誌



第24号
1990年

広島工業大学学歌

歌詞 広島工業大学選定
作曲 井上 佳

縁なる

縁なる三宅

深きいわれの

御倉を開き

倫哲愛を誇る

我等が学府

見よや行くて

精気の学士

研学の道

倚りてぞ極む

ああ

広島工業大学

広島工業大学応援歌

作詞 恩知紀子
作曲 伴谷晃二

正氣

舒す

三宅の尾根に

若人

われら

力の限り

羽博け

勝利の大空へ

フライ フライ フライ

見せばや

工大

スピリット

勝て 勝て 勝て

わたくしの 広島工大

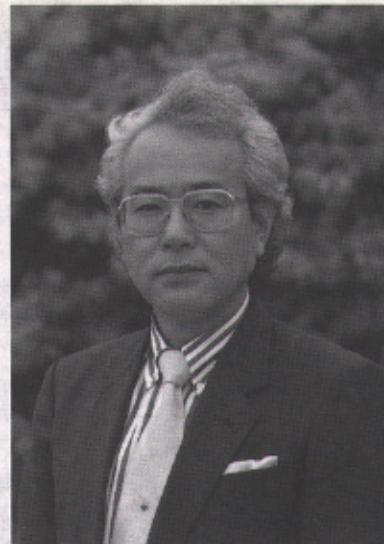
目 次

1. 提 言	1
2. 会長あいさつ	2
3. 会員だより	3
4. 同窓生だより	5
5. 就職だより	6
6. 大学だより	7
7. 在学生だより	11
8. 支部だより	12
9. 同窓会本部だより	14
10. 同窓会会則	17

Message

学内生活といえども
本来に人間的命の一部
であれば生の意味に
充ちていはずである

学生部長 水田一征



大学と社会

近頃とくに凋落激しきもの、賢者碩学の孤高と氣概、人間精神の高揚と深化、勇気と獻身の心意気、創造の心。時代の感性の落魄をそこに見る。

感性の鈍磨とマニュアルや概念への逃避とは、同一事態の別表出であって、経済主義と合理性への過度の尊重は、模式のヒステリックな盲従に至る。そこでは身は、素朴単純な実証的バラダイムにドップリと安住している。その結果の現代日本の繁栄は、偏差値神話、单身赴任を見る如く、命の意味の宙吊り状態と倦怠の気分をもたらした。大学とて社会の一部、状況は同様であるを免れない。具体的な個々の学生に對峙することを忘がちに、単純な予定調和的模式の世界の見事さに専心する。学内生活といえども、学外の社会と同様、本来に人間的命の一部であれば、声や匂いや物に溢れ、生の意味に充ちていはずである。学にあっても体による経験の大切さは、そのそこに在る。

例えは、或る大学が、在学生、教員と共に同窓生の参加を得て、パキスタンの小さな村で夏期交流大

学生部長 水田一征

学を催した時のテーマ“真の豊かさを求めて”に想い入れた意味は、唯にサークル活動の活性化や面白い旅の企画ではなくて、他者と共にする共鳴とも、生活、生命の意味の豊饒さに達する体による識知であったであろう。

異文化交流がうまく運ぶと、それはその異なる文化と信仰に育まれた感性の志向(パトス)と原風景(エートス)に体で敬意を表現することであり、人は、自己の生をそこで異化することである。その様な異化する契機が他の方策でも、現代の創造に直接してない大学や、人間関係に未熟な学生や、無名数的意味に漂うのみの工学に、今こそ求められるべきであろう。

生まれ落ちて以来今に至るまで、不幸にして、聳ゆるもの、超越するものを持たない世代の我々は、人と生命の味わいを奪還する地味な歩みを、他者との異和的協同とポリフォニックな共鳴で行うしか方途はない。社会的場や国際的場が求められる所以である。そこにも同窓会に期待するもの大なるものがあるのです。多謝。

25周年を目前としたこれまでとこれから

同窓会会長 永見憲吾



今から4年前同窓会20周年と鶴学園30周年の記念会をもったばかりでございますが、来年度は、はや同窓会創立25周年を迎えようとしております。この節目に卒業される卒業生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さん方を迎えて同窓会会員数も19,000人を数える組織となってまいりました。言うまでもなく、同窓会は、全卒業生による終身会員によって運営されているものであります。その為、同窓会は、母校が存続する限り、会員と母校を結ぶ役割を担っている事になります。私も今から6年前会長に就任致しましたが、今一度、これまで行なって來た事と、また、これからなすべき事を整理してみたいと思います。

当初の課題は4つを掲げてみました。

第1は、本部事務室の整備でありましたが、現在、専属のスタッフを1名おき、必要に応じてアルバイト等により通常の同窓会事務を行なっております。

第2は、同窓会館の建設問題でしたが、会館建設はとりやめとし、広島校舎、沼田校舎などの母校の諸施設は、他の同類の施設と比べて非常に安い料金で利用出来るので、同窓生も積極的に利用する事といたしました。

第3は、資金の問題ですが、同窓会館建設をとりやめた事により、建設資金を運営基金にまわす事によって将来の会員増に対応する事といたしました。

第4は、組織の充実であります。同窓生の所在把握と、コンピューターによる名簿整備を行ない、各県単位、

職業別など同窓生の必要分類に対応出来る様な名簿整理を行なっております。また最近では、道田、橋田両副会長に責任を持っていただいて、(1)法人化問題と、(2)組織の充実の二本柱を進めております。(1)については、法人化問題以前として同窓会の財産を鶴虎太郎奨学金財團に預金している事による規法上の問題の解決をしなければならなかった事であります。昨年11月念願の同窓会独自の預金通帳が出来ました事を皆様方にお知らせしますと共に、これまでお預り頂きました鶴財團には心よりお礼を申し上げます。(2)については、道田副会長による同窓会組織活性化についても、アンケート調査を学科別、各支部別の回答を頂き、これを参考にこれから考えて参りたいと思います。この2~3年、母校の方からも、同窓会との窓口(校友行政という)を学生課において頂き、同窓会組織の確立と、母校と同窓会との協力体制についても進めております。特に、今年1月の理事、評議員会に於ても、この問題が話題に取り上げられ、現代の様な情報化社会で同窓生同士の情報交換、又、これから起るであろう生徒学生減少のサバイバル時代に対応する為にも同窓会組織を早く確立し、この組織を活用しての情報交換は母校にとりましても、かけがえのない財産となると思います。

この25周年を迎えようとしているこの時期に互いに協力しあいながら、組織確立と活性充実に全員一致で行なう事が出来ましたならば、素晴らしい記念の年となると思います。是非とも皆様方のご協力の程をお願い申し上げます。

会員だより

近況報告 大歓迎!!

この「会員だより」は会員の皆さんの近況を掲載する欄です。

内容としては近況報告、友人への連絡事項、転勤、転職、結婚、子供の誕生、自営業・勤務先のPR等なんでも大歓迎です。

原稿には氏名、卒業学科、卒業年度、勤務先を忘れずに記入してください。できれば写真を同封してください。文章の長短は自由です。

ふだん会うことのできない恩師の先生や友人と、この欄を通して交流を深めてはいかがですか。
投稿をお待ちしております。

また同窓会誌の内容に対する要望、不満がありましたら、どしどしおよせ下さい。

原稿送付先

〒731-51 広島市佐伯区三宅二丁目1番1号

広島工業大学 同窓会本部 宛

三宅坂

平成元年電子工学科卒業

石山裕浩

朝けたたましく目覚し時計が鳴り、三宅坂を急いで駆け登れと促される。

教壇に先生が立たれる時をほほ同じにして呼吸を乱しながら前より2列目に座る。

1列目はつばが飛ぶからいやだと思いながら、眠そうな顔で講義を受ける。

今思えばとても失礼なことを3年間続けて来たものだと深く反省している。

講義が終了すると、ネオンが美しい球技に興じ、下宿に帰れば皆で酒を飲みながらTVゲームに没頭する。

鬼のように多いレポートや試験を全て徹夜でクリアし

た、決して模範とは言えない典型的な大学生。

そして、4回生の時には自己主張が多く先生に迷惑を掛けてしまう私を、4年という間「教育は愛なり」の考えの基に、坂は優しく迎え入れてくれた。

冬には駅伝の練習でさわやかな汗を流し、また、勉強で疲れた時には美しい瀬戸内海の景色で心を和ませてくれた。

表面的には200単位修得させてもらったが、実際には数で表されないほど得るもののが大きかった。

社会に出て仕事が始まると改めて坂の偉大さを感じる。

講義で学んだことはもとより、毎朝寝ぼけながら駆け登って作られた体力など全てが仕事に活かされている。

自分を鍛え磨いてくれた坂と、力強く御指導いただいた先生方、一緒に励ましながら登ってきた数多くの友人に深く感謝しながら、これから登って来る人にも有意義な坂であってほしいと願う今日このごろである。

「技術士試験」受験、

これは「頭のトライアスロンだ!!」

昭和47年電気工学科卒業

中谷 隆男

8月24日㈭、九州大学（工学部）で技術士試験を受験しましたので報告します。

受験区分は、衛生工学、水質管理、汚水処理の水質管理です。今回で3回目の挑戦です。

種目は、体験論文、科目、部門の3種目です。9時から12時まで体験論文、13時から17時まで、科目と部門の試験です。論文式で、朝から、ずっと書き通して、午後には、腰も腕も重く、しびれ、痛みの中を書き続けました。まさに、鉄人レースだ、これは、体力テストだ。「頭のトライアスロン」と言えよう、今、そのように感じています。

体力、精神力、技術力の総合力のテスト（レース？）です。

技術士は、社会的信用と技術的権威があり、技術者の中のエリートです。（テクノクラート）

技術士は、技術的経験も豊かで、学識もあり、人を指



導教育できる人格者だということだそうです。あなたもチャレンジしてみてはいかがですか、私は、今年で40歳になります。「40歳からの出発」という気持で、またチャレンジしようと思っています。

試験出題例（体験論文）は以下の通りです。

800字×5枚に書きなさい。あなたが専門とする事項で技術士としてふさわしい体験を数例あげ、その内の1つを下記の通り詳述しなさい。

(1)あなたの役割 (2)特に苦心した点 (3)現時点での再評価

以上 平成元年9月

論文の構成その他

- | | |
|------------|------------------|
| 1.目的と自分の役割 | 5.結果 |
| 2.現状 | 6.その時点での評価 |
| 3.原因調査 | 7.特に苦心した点 |
| 4.対策 | 8.現時点での再評価(最も重要) |
- 試験官にわかりやすく書く。図、表、式なども入れる。専門用語を適切に使う。試験官に「十分努力している、頑張っているな」と感じさせるように書くこと。

連絡先 〒739-04 佐伯郡大野町丸石1丁目9-2

中谷 隆男 TEL 0829-55-0724

今思うこと

昭和59年土木工学科卒業

高野 武志

(株三和技術コンサルタント)



昭和59年3月に広島工業大学土木工学科を卒業して、早6年が過ぎようとしています。この度、同窓会誌に投稿させて頂くに当り大学時代を振り返ってなつかしく思い出されます。入学時に何かやって卒業しようと思ってましたので、スキー部に所属し4年間続けられたということは私にとって大きな財産の一つです。アルバイトで稼いだお金は、ほとんどスキーに費やしていましたので、アルバイトは数多くやったというのも学生時代の一つの思い出でもあります。

学業の方はあまり勉強したという記憶がなく卒業できればいい、会社に入ればなんとかなるだろうと安易な気持でいた訳ですが、いざ会社に入ってみると、学力のなきを痛感しました。あの時習った事が今必要になるのか、

もっとしっかり勉強していれば、悩まなくてもいいのに思うことがあります。会社に入らても勉強は必要で大学で習うのより更に深く掘り下げる知らなくてはいけないので毎日が勉強です。土木分野がとても広いので、まだ勉強して、これから仕事に結びつけていかなければいけないと思っています。

現在、私は設計会社で、おもに道路設計の仕事を従事していますが、ある道路を計画するに当たり、規格、構造、施工性、経済性、利便性、快適性等を考慮し1つ1つ積み上げながら設計を行なっていく訳ですから、自分の思想というものが大切になってきます。自分で計画し現地で作られ、そのものが後世に伝えられていくということは土木技術者として幸せなことではないでしょうか。しかし壁にぶつかり1つ1つクリアし、1つ1つ大きくなっているかなければいけないと思っています。人間、壁を乗り越えるには、やる気だと思います。やる気がなければ何をやってもダメだと思います。今まで以上の試練が待ちかまえていると思いますが、そこはやる気と努力で、立ち向かって行きたいと思っています。

最後に、今後一層の広島工業大学並びに同窓会の御発展をお祈り致しまして会員だよりをしめさせていただきます。

経営工学科25周年記念

昭和45年経営工学科卒業

道田 憲治



同窓生の皆さん、新しい年を迎えるにあたって、気持ちも新たに、それぞれの立場で頑張っておられる事と、お慶び申し上げます。

私達が、青春時代に学んだ、経営工学科が、今年で25周年を迎えることに

なり、記念事業を開催する事になりました。

開催日時は8月12日（日曜日）15時より

場所は広島グランドホテルです。

入学当時を思い起せば、故森川先生、故正戸先生方より「経営工学科とは何ぞや…」と、講義を聞き、「一本の木を見るのも大切だが、一本の木を見て判断するのではなく、林を見て、森を見て……」と、なつかしく思い起されます。又、学科として一番新しく、大学としても、「是非とも経営工学科が必要である」と、期待を寄せられ今日に至っていると思います。

これから益々大学が発展する事は、我々の祈念するところであり、誇りに思うところでありますので、同窓生

の我々も相互のネットワークを図りたいと思います。
その為にも、是非記念事業に参加して頂き、有意義な時

を過して頂きたいと思いますので、友人をお説き合せの上、1人でも多くの参加がありますよう希望しています。

同窓生だより

日時／平成2年2月7日㈬ 13:30から14:30

場所／コミュニティールームにて

S：下園氏 S E：学生部瀬尾さん Y：吉田

下園収三氏：昭和53年（1979年）電気工学科卒業、卒業後日本共産党員、1989年3月廿日市市議会議員

Y：本日は、昨年廿日市市議会議員に当選されました同窓生の下園氏にお話を伺います。

どうもきょうはお忙しいところわざわざ工大まで出向いて頂きましてありがとうございます。

本学同窓生初の議員当選ということで、まことにおめでとうございます。さっそくですが、市議会に立候補されたいきさつをお聞かせください。

S：私の場合、同窓生の中にあっては異端児と言えるのかもしれません、学生時代から政治の方に興味がありまして、卒業と同時に日本共産党の専従党員として活動を始めました。確固としたポリシーを持っていたというよりも、進路を決めかねていたからという面もありました。

Y：年齢もお若いし、当選に至るまでにはかなりのご苦労があったのではないかと推察しますが、どのような運動をされたのでしょうか。

S：今35歳で市議会議員の中ではもっとも若いです。選挙は昨年の3月にあったのですが、やはり並大抵のことではありません。たとえば、通勤途中の方々に政策を訴えたり、旗を立てて行進したり、普通ではちょっと恥ずかしいようなことをがむしゃらにやりました。見掛けの派手さも必要ですが、大切なことは、政策の中身を分かりやすく説明して、市民の皆様の心を引きつけることです。

Y：党員としての長い活動が当選の機動力になったということでしょうか。

S：それと工科系出身の知識を活かしたことではないかと思います。政治の場でも客観的な判断は、数字に基づいて行われる場合が多いですから、分析力とか論理性が要求されるわけです。政策を進めて行くときに、いろいろな住民の声があり、大抵の場合感情的であります。そのようなご意見を種々の観点から分析して、納得できる形でご返事をしなければなりません。

S E：工大生を見ていますと、それぞれ優秀な点をもつ

ているのですが自己表現が巧みでないといいますか、政治家タイプの学生は少ないように思うのですが、学生時代下園さんはどのような工大生でしたか。

S：私もそのような学生の一人だったかもしれませんね。あまりまじめな学生ではなかったことは確かでしょう。20歳から党とのつながりをもっていまして、政治への関心がありました。その方面、講義やクラブ活動にはあまり熱心ではありませんでした。

Y：いま力を入れている政策はどのようなものですか。

S：政策といいますか、勉強したいと考えていることは、都市工学およびその周辺ですね。廿日市はご存じのように人口が急増しております、行政がそれに追いつかないという状態です。古くからの住宅地と新しい住宅地とのアンバランス、駅前開発、医療施設、それに下水道の整備も大きな問題です。われわれは議会では、野党的な立場ですが、ただ否定的な意見を出すだけでなく、建設的かつ具体的な代替案を提出しなければなりませんので、先進的な都市へ見学、資料収集に出かけたりして勉強しております。

S E：工大に久しぶりに来られて、大学も当時と比べるとかなり様変わりしているのを見られて驚かれたでしょう。

S：そうですね。10年一昔といいますか、時の流れを感じます。いま学生さんの姿を見て、むかしの自分もああいうふうだったかとなつかしく思います。ゼミは依田先生のところでカミナリの実験をしました。一番印象に残っているのはゼミキャンプで豊田郡大崎上島に海水浴に行ったことですね。

Y：家族構成をお聞きしてよろしいでしょうか。

S：妻と子供二人おります。双子の男と女です。3歳になります。

S E：これから卒業する工大の後輩たちにどのようなことを望みますか。

S：これと決めたことは、とことんやってもらいたいですね。諸先輩方も各方面で活躍されて工大の評価もかなり高いです。自分の信じた道で地道な努力を続けて頂きたいと思います。

Y：工大に望むことはどのようなことでしょうか。

S：いま特色がないという意味ではありませんが、なに

か特色をもってもらいたいですね。テレビなどのメディアを通して工大の名を見たり聞いたりするのは嬉しいです。

S E：議員になられる前と後でのライフスタイルの変化はありましたか。

S：やはり人前に出て、話をする機会が増えましたので、そういう面で気配りの度合いも増えました。時間的な拘束は私の場合あまりないですね。しかし、定例の議会、委員会活動の他に、結構複雑な仕事が入ってきますので忙しい毎日です。拘束がないというのは、逆に言えば、私的時間も仕事に費やす傾向がつよいということですね。また、いま衆議院選挙ということで、こればかりは手抜きができませんから、スケジュールが密になってています。

S E：工大同窓生から議員さんが出たと聞いて、珍しいケースでもあるし、普段の工大生を見ていてあまり政治

というのが結びつきませんでしたから、嬉しいことだと思います。

S：あっちこっちでよくお聞きしますが、工大卒業生の気質というのは、はじめだといわれますね。派手さはないけれども、信念を持っていて、まさにこつこつ仕事を取り組むというイメージが強いように思います。私も、

「一人は万人のために、万人は一人のために」という民主主義の基本姿勢を信念として政治活動を行ってゆきたいと思います。

S E：今後とも、皆さんのためにたゆまぬ活動を続けて下さい。期待しております。

Y：後輩のご指導もよろしくお願ひします。きょうはどうも、貴重なお話を聞かせて頂きましてありがとうございました。

就職部だより

就職部長 山 佐 崇

平成元年の日本経済は、前年の好況を引継いで長期上昇傾向を続け、元年末で景気拡大37ヶ月となりました。今後の見通しについても好材料が多く、岩戸景気（S33年7月より42ヶ月上昇）・いざなぎ景気（S40年11月より57ヶ月上昇）などに並ぶのも不可能ではないといわれています。

好況という追風は、人材採用の面にも強く反映され、元年度の就職戦線は前年を上回る「空前の売手市場」といわれました。

このような状況のもとで、本学においても就職活動は順調に推移しました。平成2年3月卒業予定者は741名（前年度卒業者より43名減）ですが、元年12月末現在の就職内定率はほぼ100%を達成しております。

平成元年度・就職内定状況の特徴を端的に示すデータとして「3人以上採用内定の企業」を業種別に示し、ご参考に供する次第です。

最後になりましたが、先輩諸兄におかれましては今後とも後輩の就職に関して、よろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申上げます。

—— 3人以上採用内定の企業 ——

A. 建設業

（8名）中国電気工事、（6名）積水ハウス、（5名）大林組、穴吹工務店、（4名）長谷工コーポレーション、前田建設工業、（3名）大豊建設、フジタ工業、五洋建設、

大成建設、西松建設、鴻池組、ナショナル住宅産業、新井組、吉本組、共立ハウシング

B. 製造業

（9名）松下電器産業、シャープ、マツダ、（5名）日本電気、大王製紙、（4名）日本製鋼所、西川ゴム工業、ダイクレ、デルタ工業、ヒロテック、日本メディカル・サプライ、西川化成、トヨエイテック、九州松下電器、（3名）スタンレー電気、富士電機、ミツトヨ、松下電工、NTN、三洋電機、大協、報国機械、東洋シート、熊平製作所、MHI工作機械エンジニアリング、ナルデック、岩国製作所、ダイキ

C. サービス業

（6名）中国日本電気ソフトウェア、（5名）日立中国ソフトウェア、（4名）三原菱重エンジニアリング、（3名）富士通エフ・アイ・ピー、東芝エンジニアリング、エイトコンサルタント、富士通中国システムエンジニアリング、中国情報システムサービス

D. その他

（5名）日本電信電話、石崎本店、（4名）日本ユニシス、（3名）広島銀行、広島そごう、新川電機

【参考】公務

（2名）国家II種、広島市人事委員会、（1名）防衛庁、山口県人事委員会、広島県警察本部、廿日市市役所、加古川市役所、玉野市役所、玉川町（愛媛県）役場。

新装なる電子計算機センターと図書館

昨年秋に着工した電子計算機センターと図書館をメインとした情報センターが3月末に完成します。新1号館、8号館と同じく白亜の塔で1階が電子計算機センター、2階と3階が図書館、4階5階は電子計算機の演習室そして最上の6階は一部の研究室と学園の総合企画室という陣容になります。

その中でもとりわけ高度情報化社会の一端をになうべき電子計算機センターの規模の壮大さが業界からも注目されております。情報センターの内容については昨秋の広報紙「広島工大」に電子計算機センター所長の中山隆弘教授が執筆されておりますので流用して皆様にご紹介いたします。

将来のコンピュータ・ネットワーク社会に対応

個々には保有不可能なワークステーションや最新のパソコンコンピュータ各種をユーザーZルームに設置

本学電子計算機センターは現在新4号館4階に位置し汎用計算機(HITACM280D)による教育や研究、さらには事務処理等に効率的に利用されている。

しかし、図書館の東側に建設されている「情報センター(仮称)」が完成する今春には、そのすべてを同センター内に移転し、コンピュータ新時代にふさわしい装いで新たにスタートする予定である。

情報センターは7階建であるが、計算機センターには1階、4階、5階が割り当てられている。これら3階を併せた延床面積は約2,200m²となり、これは現在計算機センターが占有している延床面積のおよそ4倍に相当する。

さて、今回の移転計画が持ち上がった時にわれわれセンター関係者が心がけた点は、主として、いかにして現状に勝る計算機利用環境を整え、さらには将来のコンピュータ・ネットワーク社会に対応できる機能を備えておくかという2点である。

この基本方針をもう少し具体的に書けば、

- 1) 1階というもっとも至便なフロアに位置し、ユーザーが自由に利用できる「ユーザーズルーム」は、ユーザーが長時間でも落ち着いて作業したり、思考できる空間にする。
- 2) ユーザーからの疑問や質問に対してセンター員が効率よく回答できるように、ユーザーズルームのすぐ側に、端末機を備えた「プログラム相談コーナー」を設ける。
- 3) 従来のように大型計算機のみを備えておくのではなく、ユーザーが個々に保有することが困難なワークステーションや最新の各種パソコンコンピュータをもユーザーズルーム内に設置し、研究意欲の旺盛なユーザーのニーズに応える。
- 4) 情報化社会における工科系大学であることに鑑み、将来学外のネットワークに参入できるよう事前の準備をしておく。
- 5) 教員が予算上個々に設備することが難しい教材あるいは論文作成用ツールを設置した「DTPルーム」を設ける。
- 6) コンピュータに関する各種講習会や研究会を開くのに適した「AVルーム」を設ける。

これらの目標を移転時にすべて実現することは難しいかもしれない。また、ルーチンワークに追われているセンター職員がカバーできるサービスにも限界はある。しかし、それでも移転後のセンターは、いま以上に快適な計算機利用環境をユーザーに提供することを最大の使命にしなければならないと考えている。

本センターの諸設備を利用して、学生諸君はいま以上に計算機利用能力を向上されるよう、また教職員各位はますます教育・研究成果を挙げられるよう、切にお願いする次第である。

(電子計算機センター所長 中山隆弘)

「海と島の博覧会広島」でも大好評の…

人工衛星画像地図

みなさんはこの夏の海島博をごらんになりましたか。そして自治体館(広島県・市館) SPACE EYELAND へ足を運ばれましたでしょうか。

その館内的一角に財団法人・鶴教育研究振興会が企画出展し(1)我が国で初の人工衛星画像地図の展示(2)広島工業大学リモートセンシング解析システムの実演展示(3)宇宙からみた地球そして瀬戸内のビデオ上映等を行い注目をあびました。また、このビデオは広島工業大学リモートセンシング研究室と広島情報専門学校の共同制作によるものでした。ここに今一度この人工衛星画像地図について広島工業大学の菅助教授に解説してもらいました。

この高精度人工衛星画像地図では、広島市の都市構造を明瞭に浮き彫りにし、広島湾を中心とした周辺市町村の土地利用の実態を鮮明なカラー画像地図の形で表現しています。広島湾に浮かぶかき筏、市街地の住宅、ビルディング、道路、橋梁はもとより、赤色部は1986年から1989年の3年間ににおける宅地開発や造成による土地の改変を正確に表現しています。また、既存の地形図と海図の等高線、等深線や道路網などの線情報との位置の重ね合わせ処理も正確に行われています。

従来の地図に比べ、この衛星画像地図はまさにコンピュータ時代における付加価値の高い地図として注目されています。

日常の生活では利用する機会の少ない人工衛星情報をこのような画像地図の形として一般的に利用できることになりました。大学研究機関での研究のみならず民間企業及び行政情報としても土地利用や埋立・造成による海岸線の変化・環境の変化を時系列的に検知することができ、都市計画や環境計画における各種調査に有効に利用できます。また、小中高等学校における教育用資料としての活用も多いに期待できます。

世界に類を見ない美しい瀬戸内海の環境を保全してゆくための監視役として、この人工衛星画像地図が、今後各方面で活用されることを希望しています。

これまでの主な利用分野は、以下のとおりです。

土地利用調査	水質汚染調査	環境保全調査	農作物作付・収量調査
都市環境調査	海況調査	森林資源調査	積雪・融雪分布調査
土地分級調査	地形調査	森林立地調査	
災害保全調査	構造地質調査		





人工衛星画像地図頒布のご案内

財團教育研究振興会

現在、地球規模での環境問題に対し人工衛星による地球観測システムは、気象・海洋観測・資源深査・環境監視・土地情報管理などに不可欠な観測手段として世界的に広く認識されています。

このたび、財團教育研究振興会は、「広島工業大学リモートセンシング研究室」の協力を得て、地球観測衛星ランドサット(米国)、ス波ット(仏国)の画像データによる我が国で初めての『人工衛星画像地図』の製作に成功しました。

この衛星画像地図は、これら研究グループの人工衛星によるリモートセンシング技術実用化研究の一環の成果であり、国際平和文化都市広島の都市環境の変遷に関する調査研究にも取り組んでまいりました。また近年は、中国四国地方における瀬戸内海を中心とした開発と環境保全の問題に成果が期待されています。なお表紙裏のカラー写真をご参照ください。すべてが如実にご理解いただけると思います。

当財団では、当該分野の教育研究の普及を目的としてこの人工衛星画像地図を頒布しております。皆様方に是非ご活用いただければと念願する次第です。

頒布ご希望の方は、下記までお申し込み下さいますようお願い申し上げます。



—人工衛星画像地図頒布申し込み要領—

申込先：〒731-51 広島市佐伯区三宅2-1-1 広島工業大学同窓会事務局 TEL(0829)21-3121(内線570)

申込み方法：上記申込み先に郵送または電話にてご連絡下さい。

(各職場においてまとまった部数でお申込みいただければ幸いです。)

地図寸法：縦108.5cm、横76.5cmのカラー画像地図

(広島市及びその周辺における地上の様子を10mの解像度でコンピュータによりカラー印刷したものです。)

頒布価格：1枚1,650円(郵送料は別途)

支払方法：現品受取後銀行振込み

新緑の山荘から紺碧の海へ

オリ・ゼミが洋上体験学習にかわります

本学が沼田校舎で新入生のオリエンテーション・セミナーをはじめてから21年がすぎました。この間、広大な沼田キャンパスを利用して、春を彩るさまざまな新入生歓迎の行事は、萌え出する木々の緑と野鳥のさえずりの中、10日間をかけて各学科1泊2日の日程で、開催されました。基礎教育、一般教育も含めた110名余りの教職員と、体育会、自治会、さらに子工会、電工会、広土会、五三会、経工会が一致協力して、オリゼミを本学の一大イベントに育てあげてきました。また同窓生のみなさまも仕事のあいまを縫って沼田校舎へ車をとばし、後輩になつたばかりの新入生達へ、大学で体得した知識を社会で実践した現状を講演するなど、毎年、ご協力をいただきました。それらが結集して多大な成果となつたのです。しかしに、時代の流れとともに新入生達の志向もかわり、20年間で行事各種もマンネリ化してきました。加えて沼田校舎周辺の環境の変化でキャンプファイヤーなどが夜の騒音として制約を受ける程になりました。

大学では数年前からこのオリゼミについて新しい構想を模索しておりましたが、平成2年度の今年、遂に長年馴染んだ新緑の山荘から紺碧の海へと発想を転換してみました。それは、関西汽船所有のクルーザー“さんふらわあ7”(7,750トン)を大学がチャーターして、瀬戸内海をめぐりその船上でオリゼミを実施するこびとなりました。この船は約600名の乗船が可能ですから、6学科の新入生を2つのグループに分け、4月27・28日が電気、建築、経営グループ、4月28・29日は電子、機械、土木グループの二本立てで出航いたします。

長年の温床、沼田を離れての船出となり多少の不安も伴いますが、学生部では学科の先生方と自治会・体育会等の協力を得まして、新入生に喜んでもらえる行事をめざしています。同窓生の皆様の中にもこのことに関しまして斬新なアイディアがありましたら、是非お便りをください。お待ちしています。



在学生だより

自治会および体育会の新役員を紹介いたします。早いもので自治会は今年度で30期をそして体育会は15期をむかえ、いずれも先輩の築いたよりよき伝統を守つて時代に促した活動をしてきました。また今期は自治会執行部発足以来初めての女子の会長が誕生いたしました。その人、三村淳子さんは電子工学科の3年生で昨年一年間は書記として女子学生特有の緻密な活動を続けそのバイタリティーが高く評価され、新会長に選出されました。体育会会长になった三宅政博君ともどもどうぞよろしくご支援ください。

みんなの力で我が大学の スポーツ向上を図ろう

新本部長 三宅政博

みなさん、体育会というものをどのくらい知っていますか。それよりも、みなさん自身が体育会の会員であることを知っていましたか。体育会は、体育系サークルだけの面倒を見る所という様な先入観を持っているのではないかと思います。もちろんサークル活動の援助や普及というものにも力を入れています。しかし、私達体育会本部が今、一番力を入れている事は、「一般学生へのスポーツの普及」なのです。

近頃の若者の中で、体育系サークルがよく言う、「スポーツで心身を鍛える」という考え方を持つ人がいなくなっているように思えます。大抵の人は、スポーツは楽しいものであって、楽しみながらスポーツをしたいと考えているでしょう。私の考えとしては、みなさんに心身を鍛えるスポーツ、楽しみでスポーツのどちらでもかまいません、とにかくスポーツをやってもらいたいのです。私達は、みなさんに喜んでもらえるよう、いろいろな行事を企画しています。スポーツをする機会がないという人は、ぜひ参加してみて下さい。私達と一緒に汗を流しましょう。

みなさん1人1人の力で工大のスポーツ向上を図っていこうではありませんか。意見や希望がありましたら、どしどし体育会本部室に言いに来て下さい。また、スキーや用具、野外道具、野球用具等の貸し出しをしています。宝の持ち腐れにならないようにどんどん利用して下さい。みなさんは、体育会会員なのですから!

第30期学生自治会 執行部発足にあたって

新会長 三村淳子

平成元年12月、第30期の学生自治会執行部が発足しました。今年は、例年に比べて執行部員の人数が多く、活動自体も活気づいています。

しかし、学生の皆さんにとって自治会執行部とはどのように映っているでしょうか。存在すらも知らない学生の皆さんもいると思います。実際の活動は、毎日のサークル関係や学内における諸問題の改善や処理等をはじめ、物品の貸出や管理などの仕事をしてゆき、皆さんから集めた学生自治会執行部費の有効的利用及び還元がはかれればと考えています。学生の皆さんもただ単に、自治会執行部がやってくれるとか、やらしておけとかいうのではなく、やってみようかなとか、言って(行って)みようかなという考えをもって各行事への参加や、意見を出すなどの自発的行動を、社会や遊びのみならず大学生活にも向けてもらいたいと思います。

やはり、大学の学生生活における制限を少しづつでも緩和していく、自分たちの手でよりよい学園生活を樂いていく事が自治会執行部の理想であり、仕事ですから、学生自治会執行部員である皆さん一人一人の協力を必要としています。いくら執行部が頑張っても、かゆいところに手が届かなければ無意味になってしまいます。

今期は節目である30期ということもあって、執行部一同、日々新鮮な気持で、広島工業大学がいかにすればもっと活動的になり、快適な大学生活が送れるかについて努力しています。皆さんの協力をお願いします。

支部だより

株大金製作所職場支部発会式

1. 職場名 株 大金製作所
2. 職場所在地 県572 寝屋川市木田元宮1丁目1番1号
☎ 0720-22-1151
3. 発起人氏名(代表者2名)

氏 名	卒業年度	学科
真 鍛 寿 文	46年度	経営工学科
和 泉 臣 彦	50年度	経営工学科

平成元年4月22日㈯に大阪の株大金製作所の同窓会職場支部発会式が行われました。この会には、片山先生と私が行くことが決まり、大学からの支部結成お祝いと同窓会からの支部援助金を持って大阪へと向かいました。

大阪駅を経て環状線二駅目の桜ノ宮で下車したところの大坂リバーサイドホテルにて17:30から会が行われました。支部の呼び名は、DAIKIN支部で、構成会員は、支部長の真鍋氏(71年度経営卒)を筆頭に21名です。機械工学科と経営工学科の卒業生が多いのが印象的です。発会式は、和泉氏の開会の辞ではじまり、支部長挨拶、幹事長挨拶、片山先生音頭による乾杯と進行し、村上氏の司会で自己紹介等が行われ、盛会のうちに会は終了しました。それから、桜の名所があるという誘いを、未練を残しつつおことわりし、(まつりばつり)の春雨に打たれながら、また有意義な発会式出席であったと満足しながら、ひかり博多行き最終列車に帰路を急ぎました。

(広島工業大学同窓会幹事長 吉田和信)



〈支部結成のために必要とされる手続き〉

- 1) 支部結成発起人（氏名・卒業年度・学科など）
- 2) 支部所属会員名簿（同上）
- 3) 支部則案（見本があります。参考にして下さい。）
- 4) 支部事務局となる連絡場所（代表者・連絡先住所・電話番号など）
- 5) 正式に支部として承認されましたら、支部則にもとづき支部長等役員名簿を本部に届ける。

支部結成のための連絡先

〒731-51 広島市佐伯区三宅2丁目1-1

広島工業大学同窓会本部事務局

T E L (0829) 21-3121

同窓会地域・地区支部の連絡先（支部長）紹介

（支部結成状況図参照）

〈地区支部〉

A 1 関東支部

〒333 埼玉県川口市戸塚5-18-21

上 村 忠（45年電子卒）

ファコムハイタック（株）システム部5課

(0482) 95-8059

A 2 近畿支部

〒533 大阪市東淀川区豊里5丁目17-1

馬 頭 陸 夫（42年電子卒）

木村化工機（株） (06) 345-6261

A 3 岩国支部

〒740 岩国市岩国2丁目17-18

田 原 亮 治（45年建築卒）

岩国市役所 (0827) 22-4141

〈県支部〉

B 1 長崎県支部

〒852 長崎市文京町5-13コープ今井402号

福 田 雅 信（43年機械卒）

長崎県庁建築課 (0958) 24-1111（内線3091）

B 2 徳島県支部

〒779-31 徳島市国府町和田字居内114

木 村 和 男（44年建築卒）

ケイ・エム建設 (0886) 42-0895

B 3 香川県支部

〒762 坂出市駒止町1-2-34須崎アパート

安 藤 繁 樹（47年電子卒）

石垣機工（株）(0877) 45-2222

B 4 宮崎県支部

〒889-19 宮崎県北諸県郡三股町樟山14227-5

谷 口 忠 光（43年機械卒）

都城東高等学校 (09865) 2-1010

広島工業大学同窓会 地区、県、職場支部の結成状況

（支部結成）（地区、県、職場）（主催名）

年 月 日

- A 1) 昭和44.7.13 地区 関東支部（A 1）
 A 2) 昭和50.4.1 地区 岩国支部（A 2）
 A 3) 昭和53.9.20 地区 近畿支部（A 3）

（A）○地区支部…3

（B）○県支部…4

（C）○職場支部…20

- B 1) 昭和54.10.20 県 長崎県支部（B 1）
 B 2) 昭和54.12.1 県 徳島県支部（B 2）
 B 3) 昭和54.12.2 県 香川県支部（B 3）
 B 4) 昭和57.6.19 県 宮崎県支部（B 4）
- C 1) 昭和54.4.22 職場 ジュニア自動車（C 1）
 C 2) 昭和54.4.22 職場 中国電機製造（C 2）
 C 3) 昭和54.4.22 職場 大富株式会社（C 3）
 C 4) 昭和54.4.22 職場 中国電力㈱（C 4）
 C 5) 昭和54.4.22 職場 油谷重工業（C 5）
 C 6) 昭和54.4.22 職場 三洋産業㈱（C 6）
 C 7) 昭和56.9.26 職場 乗電商事㈱（C 7）
 C 8) 昭和57.3.20 職場 球磨川河和（C 8）
 C 9) 昭和57.6.5 職場 三次電機㈱（C 9）
 C 10) 昭和57.6.5 職場 マツダ㈱（C 10）
 C 11) 昭和57.11.27 職場 広島県消防本部（C 11）
 C 12) 昭和59.1.21 職場 神松竹製作所（C 12）
 C 13) 昭和60.3.1 職場 広島在阪商支部（C 13）
 C 14) 昭和61.6. 職場 麻衣明技研㈱（C 14）
 C 15) 昭和61.10. 職場 廿日市市役所（C 15）
 C 16) 昭和61.11. 職場 中西電気工業㈱（C 16）
 C 17) 昭和62.12.12 職場 シヤチハタ㈱（C 17）
 C 18) 昭和63.5.13 職場 西川化成㈱（C 18）
 C 19) 昭和63.6.27 職場 広島市消防局（C 19）
 C 20) 平成1.4.22 職場 DAIKIN製氷（C 20）

（平成元年1月現在）

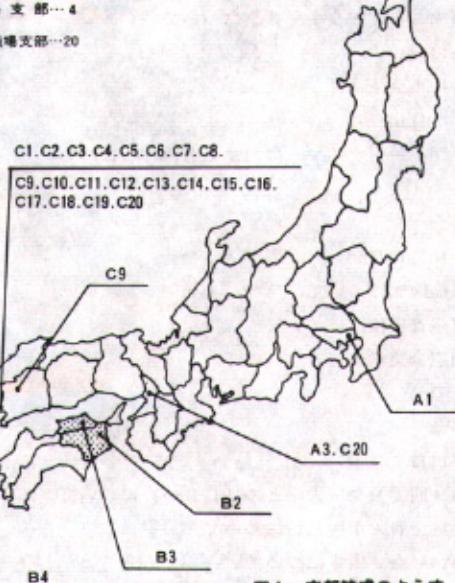


図1 支部結成のようす

幹 事 会

◎第1回幹事会

平成元年4月6日(土)

議題1. 昭和63年度決算報告

2. 平成元年度同窓会活動方針について
3. 平成元年度予算について
4. 平成元年度役員案について
5. 総会について
6. 会則改正案について

◎第2回幹事会

平成元年4月24日(土)

議題1. 新幹事の紹介

2. 平成元年度活動の役割分担について
3. アルバイト雇用について
4. 大金製作所懇親会支部結成について
5. 総会報告

◎第3回幹事会

平成元年5月26日(金)

議題1. 会報第23号の内容について

2. 匠会の会員データ利用申請について
3. 来年度総会・懇親会について
4. その他

◎第4回幹事会

平成元年6月23日(土)

議題1. 第23号会報のレイアウト及び内容について

2. 平成2年度総会・懇親会について
3. その他

◎第5回臨時幹事会

平成元年7月10日(土)

議題1. 長期パートタイマーに対する有給休暇について

◎第6回幹事会

平成元年10月13日(土)

議題1. 組織図案について

2. 財産管理検討について
3. 同窓会奨学生選考について
4. その他

◎第7回幹事会

平成元年11月2日(土)

議題1. 第3回委員会(大学との話し合い)について

2. 終身会費の重複払いについて
3. 第24号会誌編集について
4. 平成2年度総会・懇親会について

第8回幹事会

平成元年12月6日(水)

1. 鶴教育振興会への協力について
2. 広士会会員データの利用申請について

◎第9回幹事会

平成2年1月24日(水)

1. 教育懇談会への協力について
2. 会誌第24号の発行について
3. 平成2年度の人事について

役 員 会

◎第1回役員会

平成元年4月8日(土)

1. 昭和63年度活動報告について
2. 昭和63年度会計報告について
3. 平成元年度活動方針について
4. 平成元年度予算案について
5. 平成元年度役員案について

◎第2回役員会

平成元年5月20日(土)

1. 平成元年度役割分担について
2. 会計業務の整備について
3. 来年度総会・懇親会について

◎第3回役員会

平成元年6月24日(土)

1. 会報第23号の内容について
2. 匠会の会員データ利用申請について
3. 来年度総会・懇親会について

◎第4回役員会

平成元年10月14日(土)

1. 組織図案について
2. 財産管理検討について
3. 同窓会奨学生選考

学 科	学生番号	氏 名
経営工学科	896040	川 本 啓 示
機械工学科	893101	笹 川 和 以
土木工学科	894041	佐 伯 直 紀
電子工学科	891010	大 久 保 勝 也
電子工学科	881032	川 口 亨 淳
機械工学科	873216	山 中 敏 彦
電子工学科	881121	吉 田 大 輔
機械工学科	883023	稻 葉 久 尚
建築 学 科	895043	河 本 雄 二
電気工学科	892032	加 藤 直 樹
機械工学科	873036	大 久 保 隆 幸
機械工学科	893160	月 岡 昌 治
経営工学科	896090	濱 田 敏 治
建築 学 科	895046	吉 川 耕 治
建築 学 科	895160	由 利 淳

以上15名

同窓会奨学生の財源は全員の皆様からの寄付によって賄われております。

現在一人当りの支給額は月額3,500円と少額で見直しをせまられている現状です。

資金確保のため、ご協力をお願い致します。

ご送金にあたりましては、同封の振込用紙をご利用頂ければ幸いです。

図書寄贈のお願い

今年度、広島工業大学情報センターが新設され、その2~3階が現在の図書館と一体となり閲覧室として使用されます。同窓生の皆様で御自身の著書があれば図書館に寄贈をお願いします。

計 報

ご逝去の旨、連絡をいただいた会員の方々です。慎んでご冥福をお祈りいたします。(敬称略)

計 報

ご逝去を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

武井 英雄先生(機械) 元. 11. 8 ご逝去

445194 久保田 実
 486006 石 原 典 祥
 465076 西 川 誠 司
 432088 矢 野 晴 雄

寄付者ご芳名一覧

自 昭和64年1月1日
至 平成元年12月31日

皆さまからお寄せいただいた御芳志に対し
厚くお礼申し上げます。

★敬称略
★学科別受付順

[電子工学科]

松尾也史	三明正樹	基博	洋二	治文	秀一	剛	樹登	士	佐藤一	佐々木	成達
児田卓健	藤田敬宣	井田正秀	田中政宣	藤田正秀	藤田繁	藤田一	樹登	士	佐藤一	佐々木	成達
本玉杉	井津加宣	井田正政	田中宣	藤田正政	藤田裕仁	藤田一	樹登	士	佐藤一	佐々木	成達
大吉	野田吉	井田崎	田中方	井田崎	井田仁恭	井田一	樹登	士	佐藤一	佐々木	成達
太田	野岡吉	井田土	田中方	井田土	井田裕仁	井田一	樹登	士	佐藤一	佐々木	成達
河野	野岡河	井田小	田中方	井田小	井田範雄	井田一	樹登	士	佐藤一	佐々木	成達

[電気工学科]

貞神弘	正田正	美進山	進敬	五郎	彦彦	地倉	俊夫	治裕	東加	東川	精二
神西秀	松田敏	田井明	田井宣	三重	山松昭	木谷	正雅	裕彦	東好	岡上	寛日出夫
西松	藤井敏	井井昭	井井昭	山	松崎昭	花下	佳	勝	原上	岡上	寛日出夫
藤	井井宣	井井昭	井井昭	重	山	瀬野	井	井	上	岡上	寛日出夫

[機械工学科]

松本繁	森川本	園吉	教優	田中	田口	岡井	田内	住池	池末	也治	博司
藤園勝	園河勝	吉田勝	吉田隆	合内	合内	村合	崎木	瀬笠	瀬笠	基勝	潤政功
烟吉	河内吉	田中吉	田中尚	村一	村一	村一	木橋	高石	高石	孝臣	勝
吉安	吉安	吉安	吉安	河竹	河竹	竹田	井田	重森	重森	治紀	也治
森平	森吉	吉安	吉安	水宇	水宇	宇都	木村	森	森	浩	也治
				吉長	吉長	吉長	松坂	松坂	松坂	伸	也治

[土木工学科]

安佐弘	岡貴弘	之國	司士	荒瀬	谷口	佐木	賀村	田中	田吉村	長谷川	清
佐村勝	村上錦	上本	透	検近	山藤	木石	田岡	森高	吉村	吉村	吉村
竹中	竹中	竹中	竹中	業	田藤	山村	岡森	森高	岡森	吉村	吉村

[建築工学科]

村本村	田間上	卓二	雄仁	佐木	木根	憲幸	原谷	船木	木野	士明	和昭
井原前	井原前	雅仁	博明	宇門	藤國	康高	谷田	木福	後本	孝利	二人
前石	前石	俊廣	貴貴	大中	村村	智清	増田	光山	内上	実典	弘
				末	田	等	鴻津	雲	上	隆	弘

[経営工学科]

原貞中	金典	明	率	中新	尾博	和田	永道	未田	正一郎	昭二	洋潔

広島工業大学同窓会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は広島工業大学同窓会（以下本会という）と称する。
- 第2条 本会は本部を広島工業大学内に置く。但し総会で必要と認めた場合に支部を置く事ができる。
- 第3条 本会は会員相互の交説を厚くし、かつ母校の発展に貢献することを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的達成のため次の事業を行う。

- (1)集会
- (2)会員相互の連絡並びに共助に関する事
- (3)会誌、会報及び会員名簿の発刊
- (4)母校に対する精神的・物質的援助
- (5)その他本会の目的達成に必要な事

第2章 会 員

- 第5条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1)正会員 広島工業大学工学部、同大学院工学研究科及び広島工業短期大学の卒業生で終身会費を納入した者
 - (2)準会員 広島工業大学工学部、同大学院工学研究科の在学生で入会金を納入した者及び役員会で適當と認められた者
 - (3)特別会員 母校教職員及び旧教職員

第3章 役 員

- 第6条 本会は下記の役員を置く。
- | | |
|----------|-----------|
| 名誉会長 1名 | 会 計 3名 |
| 会 長 1名 | 会計監査 3名 |
| 副 会 長 2名 | 書 記 2名 |
| 幹 事 長 1名 | 幹 事 若干名 |
| 副幹事長 2名 | 評 議 員 若干名 |

- 第7条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1)名誉会長は広島工業大学学長を推す
 - (2)会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計、会計監査、書記、幹事、評議員は総会で正会員の中から選出する

- 第8条 役員の任務は次のとおりとする。

- 会 長 本会を代表し会務を統べる。
- 副会長 会長を助け会長に支障があるときはその任務を代行する。
- 幹事長 会務を主掌する。
- 副幹事長 幹事長を助け幹事長に支障があるときはその任務を代行する。
- 会 計 会計事務にあたる。
- 会計監査 会計を監査する。
- 書 記 会議の議事をとる。
- 幹 事 会務を処理する。
- 評 議 員 会務を評議する。

- 第9条 役員の任期は1ヵ年として再任をさまたげない。

- 2 役員に欠員が生じたときは、役員会の議を経て欠員を補充し、これによって就任したもののは任期は前任者の残任期間とする。

第4章 顧問・相談役

第10条 本会に顧問、相談役をおく。

- (1)顧問、相談役は総会の議決により委嘱する。
- (2)顧問、相談役は諮問に応ずる。

第5章 会 議

第11条 会議は定期総会、臨時総会及び役員会とする。

第12条 総会は本会の最高議決機関で、定期総会は毎年4月に開く。

- 2 臨時総会は役員会が必要と認めたとき会長が召集する。

第13条 総会は次の事項を決議する。

- (1)会則及び細則の制定及び改正に関すること。
- (2)決算及び予算に関すること。
- (3)役員の改選に関すること。
- (4)その他重要な事項。

第14条 役員会は会長が必要と認めた時召集し、次の事項を協議又は決議する。

- (1)総会に附議する原案
- (2)本会の運営に関する諸事項
- (3)内規の制定及び改正
- (4)その他緊急事項の協議

第15条 会議の議決は正会員の出席者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第6章 会 計

第16条 この会の経費は終身会費、寄付金及びその他の収入をあてる。

- (1)本会の入会金は3,000円、終身会費は15,000円とする。
但し、一度納めた会費は返還しない。
- (2)この会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- (3)その他の事項については別に定める会計細則による。

附 則

この会則は、昭和41年3月27日から施行する。

昭和41年 8月17日一部改正	昭和53年 4月29日一部改正
昭和43年 8月17日一部改正	昭和56年 4月29日一部改正
昭和44年 8月4日一部改正	昭和58年 4月29日一部改正
昭和45年 8月2日一部改正	昭和59年 4月29日一部改正
昭和46年 4月25日一部改正	昭和63年 4月17日一部改正
昭和50年 5月4日一部改正	平成元年 4月16日一部改正

広島工業大学同窓会会計細則

(目的)

第1条 この細則は広島工業大学同窓会（以下本会という）の会計に関する基準を確立し、同窓会活動の円滑なる運営を図り、本会の健全なる発展に資することを目的とする。

(業務)

第2条 会計は次の事務を行う。

1. 同窓会入会金（終身会費及び準会員入会金をいう）寄付金及びその他の受入事務
2. 予算に基づく支出負担行為事務
3. 帳簿類の記帳・保管
4. 会計に関する証拠書類の整理保管

(帳簿)

第3条 会計には次の帳簿を備え常に経理の明確を計る。

1. 予算内訳帳
2. 予算項目内訳帳
3. 預金内訳帳
4. 収入内訳帳
5. 奨学金基金出納帳

(帳簿記入の原則)

第4条 帳簿はページ順に行い簡明に記入し原則として余白は残さない。

(帳簿の更新)

第5条 帳簿の更新は会計年度毎に行う。

(保存期間)

第6条 会計書類の保存期間は次の通りとする。

1. 決算諸表（永久）
2. その他の諸帳簿等（永久）
3. 領収書（永久）

(収納金の処理)

第7条 収納した金銭は同窓会長が特に認めた場合の外は指定の金融機関に預金しなければならない。

(支払い手続き)

第8条 金銭の支払いをする場合は請求書その他の取り引きを証する書類に基づき支払う。

(予算の補正)

第9条 会長は特別の事由により、予算実行に重大な支障を生ずるおそれのあるときは、役員会の決議を経て予算の補正を行うことができる。

(予算の遵守)

第10条 予算は忠実に実行されなければならないし、予算を超える支出をしてはならない。

(予備費)

第11条 予算外の支出又は予算超過の支出に充てるため予備費を設けることができる。

予備費は、役員会で否決した費途に充てることはできない。

(会計監査)

第12条 会計監査は、毎会計年度ごと会計監査員によって行われ、総会に報告し承認されなければならない。

(手 当)

第13条 役員及びその他同窓会運営責任者の手当は内規（一）旅費規程、及び（四）手当支給規程の定めるところによる。

(援助金)

第14条 準会員及び支部の援助金予算の支出は内規（三）援助金規程の定めるところによる。

(臨時雇用)

第15条 同窓会運営に当り、幹事会で臨時雇用の必要を認めた場合、会長の承認をもってこれを行うことができる。

臨時雇用に要する費用は内規（五）臨時雇用規程の定めるところによる。

附 則

この細則は、昭和48年4月29日から施行する。

広島工業大学同窓会内規

(一) 旅費規程

第1条 役員会及び幹事会出席役員に対しては、旅費及び日当を支給するものとする。

1. 旅費は役員の居住地より役員会及び幹事会開催地までの交通費とし日当は500円とする。

2. 使用交通機関は汽車、電車、バス、船舶の普通料金とする。役員は自己の使用交通機関を会計に提出し、承認を受けるものとする。

第2条 会誌その他、広告掲載のために広告取得する場合、交通費に当日の日当500円を加算し支給するものとする。但し、交通機関については会計の承認を必要とする。

第3条 その他の同窓会運営に関する出張に対しては、旅行保険をかけ旅費を支給するものとする。旅費は広島工業大学の旅費規程に準ずる。

第4条 支給された費用の領収は様式(1)をもって行う。

(二) 廉弔費規程

第5条 教職員の逝去に対する香典は、原則として10,000円を御靈前に供えるものとする。但し、金額は状況により変更できるものとする。

(三) 援助金規程

第6条 この規程は、大学学生部で認められた体育系及び文化系における学外行事への援助を目的とする。

申請は指定の申込書に必要事項を記載の上、同窓会に提出するものとする。援助の可否は年度予算の範囲内において、役員会の議をもって決定する。

援助金は次の通りとする。

(1) 体育系クラブ

地域代表権を獲得し、且つ、日本選手権試合に相当する試合に登録された選手に対し支給する。

片道距離	援 助 額
100km未満	試合日数×2,000円×人数
100km～300km未満	(試合日数+1日)×2,000円×人数
300km以上	(試合日数+2日)×2,000円×人数

* JR五日市駅よりJRの距離計算に準ずる。

(2) 文化系クラブ

行事に要する費用	援 助 額
30,000円未満	5,000円
30,000円～100,000円未満	10,000円
100,000円～300,000円未満	20,000円
300,000円以上	30,000円

第7条 在学生主催の大学祭及び体育祭等に援助金を支給するものとする。但し支給額については年度予算範囲において役員会で決定する。

- 第8条 支部に援助金を支給するものとする。但し、支給額については年度予算範囲内において役員会で決定する。
- 第9条 援助金を受けたい団体もしくは個人は指定の申込書様式2a及び3aをもって少なくとも、1週間前に申し出なくてはならない。又、行事の終了した1週間以内に報告書様式2bを提出しなくてはならない。

(四) 手当支給規程

第10条 役員のうち会計に選出された者に対し、会計手当として年間総額15,000円を支給する。

第11条 同窓会役務担当者のうち、次の責任者には手当を支給するものとする。

会誌発行責任者 5,000円

会報発行責任者 2,000円

名簿発行責任者 5,000円

支部担当責任者 5,000円

その他、手当支給が適当と認められた者は、役員会の議決を経て会長がこれを決定する。

(五) 臨時雇用規程

第12条 臨時雇用の費用は、雇用時の平均的な額とする。但し、役員会で議決を経て会長がこれを決定する。

第13条 臨時雇用の依頼は様式4aをもって、依頼事務完了しだい様式4bをもって報告するものとする。

附 則

この内規は昭和48年4月29日から施行する。

昭和51年4月29日一部改正 昭和57年3月20日一部改正

昭和56年3月14日一部改正 昭和58年4月16日一部改正

昭和56年4月29日一部改正 昭和59年6月30日一部改正

広島工業大学同窓金奨学金給付規程

第1条 総 則

広島工業大学同窓会会則第1章第4条にもとづき、この規程を定める。

第1項 奨学生の資格

本会の奨学生となるものは広島工業大学に在学し、学資の支弁が困難と認められるものでなければならない。

第2項 奨学金の給付期間及び金額

奨学金の給付できる最長期間は正規の最短修業年限の範囲内とする。但し、奨学生については1年毎に新規出願者と併せ審議のうえ、継続給付の可否を決定する。

この期間中に給付する奨学金の額は次のとおりとする。

年額1人当り 42,000円

第2条 奨学生の採用と奨学金の交付

第3項 奨学生の願書の提出

奨学生志願者は本会あての奨学生願書を本会に提出するものとする。

第4項 奨学生の採用

奨学生的採用は同窓会役員会の選考を経て、会長が決定しその結果を大学を経て、本人及び保証人に通知する。

第5項 奨学金の交付

奨学金は毎年2回に分けて交付するものとし、大学を経て本人に送金するものとする。

第6項 奨学金の受領書の提出

奨学金の交付を受けた奨学生は、そのつど奨学金受領書を提出しなければならない。

第7項 生活状況の報告

奨学生は毎年度末に生活状況報告書を会長あてに提出しなければならない。

第8項 異動届出

奨学生は次の各号の1に該当する場合は直ちに届出なければならない。

1. 休学、復学、転学、または退学したとき
2. 停学その他処分を受けたとき

第9項 奨学金の休止

奨学生が休学または長期にわたって欠席したときは奨学金の交付を休止する。

奨学生的学業または素行などの状況により、指導上必要があると認めたときは奨学金の交付を休止することがある。

第10項 奨学金の復活

前項の規程により奨学金の交付を休止された者がその事由が止んだときは届出により奨学金の交付を復活することがある。

第11項 奨学金の廃止

奨学生が次の各号に該当するときは、奨学金の交付を廃止する。

1. 傷い疾病などのため成業の見込みがなくなったとき
2. 素行が不良となったとき
3. 前各号のほか、奨学生として適当でない事実があったとき
4. 在学中処分を受け、学籍を失ったとき
5. 奨学金を必要としない理由が生じたとき
6. その他第1項に規定する奨学生としての資格を失ったとき

第12条 奨学生の辞退

奨学生はいつでも大学を経て奨学生の辞退を申し出ることができる。

第3条 補　　則

第13項 実施細目

この規程の実施について必要な事項は別に定める。

附　　則

この規程は昭和51年4月29日から実施する。

平成元年4月16日一部改正

広島工業大学同窓会奨学生選考内規

1. この内規は「広島工業大学同窓会奨学生給付規程」第3条第13項にもとづいて奨学生の選考内規を定める。
2. 家計状況の順位は原則として日本育英会の基準に準じて決める。但し、提出書類の記載内容と実情の差が大きいと認められる場合はその限りでない。
3. 選考にあたっては必要に応じて、会長が面接を行う場合もある。
4. 人物に特に好ましくない点がある場合は選考の対象としない。
5. 学業成績不良のため、出願時受講制限を受けた者は選考の対象としない。
6. その他

給付する奨学生の定員は年度予算の範囲内とする。

附　　則

この内規は昭和51年4月29日から実施する。

会誌発行者 広島市佐伯区三宅二丁目1-1

広島工業大学同窓会

本館4F

T E L (0829) 21-3121

内線 (570)

表紙題字 篠 裕 筆

発行責任者 永 見 憲 吾

編集責任者 経 営 工 学 科

印 刷 所 様ハローテンイン

広島県佐伯郡大野町梅原一丁目
3番2号

電 話 (0829) 55-2201



☆人工衛星画像地図「宇宙からみた広島とその周辺」の解説と
「頒布についてのご案内」が8, 9頁にあります。